

KSKP えのき

NEWSLETTER

地域で当たり前に暮らすために

編集人：社会福祉法人えのき会

理事長：古川 末子

京都市伏見区桃山町山ノ下44-8

075-605-0303 (TEL)

075-605-0310 (FAX)

e-mail:info@enokikai.or.jp

http://enokikai.or.jp

1984年8月20日第3種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6の日)発行 定価100円

寒中お見舞い

申し上げます

2024 1・1

新年早々の「令和6年能登半島地震」と名付けられた地震の規模と被害の大きさに、只々驚いています。

ひと月近く経過しようとしているにも拘らず、復旧が進まないようにすに愕然とするのは勝手な見方なのかもしれませんが、1日でも早く落ち着いた環境に身を置くことができますよう、困り自治体を挙げての素早い対応を願わずにはいられません。

また、生きる上でさまざまな困難を伴う人が、避難所生活を送るために、より配慮の行き届いた環境と支援が提供されたいことを願っています。

他方、私たちの日常を大きく変えたコロナ感染が5類に移行後、それに関する情報はほぼ入らなくなりました。しかし、現在も、コロナ感染者は増える傾向にあり、インフルエンザの流行と共に、法人として気を抜けない状況となっています。

コロナ感染がどこへ向かおうとも、日々の人々の営みは続きます。自然災害においてもコロナ感染においても、社会のなかで弱者と言われる人たちに不利益が及びます。更なる不利益を被ることのない社会、誰かを犠牲にして成り立つ社会ではなく、誰もが生きていきやすい社会であることを切に願います。

本年も、どうかよろしくお願ひ申し上げます。

(理事長 古川末子)

えのき会事務局長・熊谷秀司

遠い場所で発生した能登半島での震災ニュースが私たちの元に届きました。被災地の皆さまには心よりお見舞い申し上げます。この出来事を受け、私たちは改めて困難な状況に直面しつつもそれに立ち向かい、ともに歩んでいくという結末の大切さを再認識いたしました。

震災の報道を通じて、被災地の地域社会が一丸となり、助け合い、支え合う姿を見ることができ、その姿は私たちにとても大きな力を与えてくれました。

震災の被害や、その地で困難な状況に直面されている皆さまと比較すると些少なこともかもしれませんが、私たちもまた、様々な課題や厳しい現実に向面しています。予算の制約、人手不足、まだまだ続くコロナ禍、そして厳しい社会情勢など。また、2025年以降の、担い手となる生産年齢人口の減少の加速化、親の介護と子育てを同時に担うダブルケアなどといった複合的な課題など、社会福祉法人で働く私たちを取り巻く環境も、リスクが複雑化、多様化してきています。

しかし、今回の能登半島震災禍に立ち向かう皆さまの姿を通して、困難を共有し、支え合うことの大切さを再認識しました。今、私たちが直面している問題や課題も、皆で協力し、助け合いながら乗り越えることができるのではないかと感じることがになりました。

この機会を通して、私たちの現状や努力を共有し、皆さまとの絆を深めていければと思います。時には苦しいこともあるでしょうが、一つひとつの困難を乗り越えることで、より強く結ばれ、希望に満ちた未来を築く手助けになると信じています。

最後に、皆さま方のご理解とご支援に心より感謝申し上げます。共に頑張り、未来への希望を共有していただけること、改めて感謝の気持ちでいっぱい입니다。今後とも、どうぞよろしくお願ひいたします。

「お世話になりました」

村上高久 (前・統括部長)

五〇歳の春にえのきに来た時は、榎の家北棟の隣に真新しい新棟(南棟)が竣工する間際でした。二〇数名の職員は、慌ただしく居室支援や日中活動に奮闘していて、給料が安いのに労働時間だけは長いと愚痴をこぼす人もいれば、これから始まるであろう新規事業には全く関心すらなく、これ以上仕事が増えるのを多くは懸念していました。退職していく職員も数名いましたし、このままでは活路を見いだせないのは明白で、前を向いて現場に出て行動していく以外にないと決心したので思い出します。

あれから一五年近くが経過しました。榎の家を中心にさくらの家はなみずき(西町)と活動拠点は増え、職員総数も3倍以上になったと思います。「開拓的精神」「可能性の限らない追及」を秘め実践していくことの重要性を偉大な先人から学び、これができていたからこそ、えのきで今日を迎えることができました。職員は自ら行動することで自分たちの職場環境を改善していけることを次第に学習し、事業拡大に貢献してくれたことに感謝しています。なにより、利用者の笑顔に励まされ、真摯に利用者さんに寄り添う職員の姿は、この仕事を続けてきて味わえる喜びでもあります。

えのきの特徴は何より個別に寄り添い、じっくり支援するところに尽きると思います。利用者一人ひとりの特性、年代を考慮し、その後の人生に思いを巡らせ、今何が必要なのか模索する。時には楽しみなイベントを企画し実行する等、あらゆることにチャレンジできる環境があります。また、子育て世代にとっても、労働時間が選択できる、有給の看護休暇があるなど働きやすい職場です。

時代はかわっていきませんが、法人理念の具現化に向け大切にすべきところを守り、笑顔が絶えないえのき会であってほしいと思います。利用者、ご家族のみな様、積み残した課題はありますが、この間本当にお世話になりました。みな様に出逢うことができ、充実した日々を過ごせ、感謝の気持ちでいっぱい입니다。ありがとうございます。



職員を育て、えのき会を育て、花々を育ててくださりありがとうございました！
お時間がございましたら、ぜひお立ちより下さい。

ご寄付いただきありがとうございました！

2023年4月~2023年12月末

小山 敏枝	小中 謙吾	京都鳥羽ライオンズクラブ	京都おもちゃライブラリー	木村 健治	北川良工務店	株式会社 朱常分店	勝見 九重	奥田 希充子	大西 雅也	植田 智恵	猪鼻 昌司	磯貝 英雄	秋山 泰人	秋山 眞一郎
谷口 登茂子	谷内 文字	田邊鈴恵	田中 朗	竹本 勝一	竹村 壽子	高橋 陽子	高橋 律固	進藤 悟	下山 米次郎	渡辺 淳	山ノ下第一自治会	森井 和子	武蔵野 眞知	宮坂 亜矢子
原 哲夫	橋本 英生	中川 穂乃伽	津々木 幸子	土田 恵理子	松田 伎美子	松田 晶代	松岡 匡宏	伏見稲荷大社	藤谷 一夫	藤田 亜都子	古川 末子	平井 正一郎	久門 誠	樋口 和子

三矢 佑悟



長引くコロナ禍で、諸事情もあるにも関わらず、法人へのご寄付ありがとうございます。以前のように「に事業収入は、全面的に回復とまでいきませんが、利用者、ご家族の思いを受け止めながら丁寧な支援を行っています。と思っています。今年もよろしくお願い致します。



1990年初頭のバブル崩壊から現在迄の期間を表す「失われた30年」という言葉があります。経済の回復は見込めないまま就職難の時代へ。採用職員の一人は就職氷河期世代のご真ん中。正規雇用は夢のまた夢。非正規雇用やフリーターが当たり前となった時代です。また、昨春、大学を卒業した世代も、「日本の景気の良かった時代なんて知らない」と語りながらも、自らの道を着々と歩んでいます。その逞しさに拍手喝采です！



50歳を過ぎての転職で職場に溶け込めるのかなと思っていました。また利用者さんが、自分のことを受け入れて下さるか、不安でした。

「この支援は望んでおられる事なのかなあ」、「あつてるかなあ」と考えたりする事は多いですが、そのおかげで成長できたように思います。介護福祉士の資格を取って介護の一口になりたいです。

また、50歳を過ぎて、正職員で採用して頂いたので、法人に恩返しできるようにしたいです。定年まで、しっかりと勤め上げ、その後70歳までドライバートとして、雇って頂けると有難いです。賞与が思っていた以上にあつたので、半分は貯蓄しあとは、高級布団を買い、夜九時半に寝て5時半に起床し、体調管理に気をつけています！

(k)



初任者研修を受講し介護の基礎知識を持ちました。親元を離れ、一人暮らしをしながら仕事と両立できています！

先輩職員や家族さんも優しいので、これから皆さんに返していけたらと思います。12月に貰ったボーナス、自分へのご褒美に、東京までNEWSのライブに行きました。親には申し訳ないかなと思いましたが自分のために使いました！

(a)



仕事にようやく慣れてきました。右も左も分からなかったけれど今は「こっちはかな？」程度にわかります。

保育実習でえのき会に来たのがきっかけで、児童福祉より障害福祉の方がコミュニケーション取れたときの喜びが大きいです。尊敬できる先輩もいます。昨年の自分に掛ける言葉は

少しは仕事に慣れたかな〜と思います。しんどい事は、利用者さんに「お風呂入りましょう？」と言っても「いや〜」と言われた時等。もっと利用者さんの家での様子、実はこんな子なんですよというのを、ご家族を通して知りたいです。

私の事も知って貰って安心して託して貰えるようにしたいです。安心、安全に外出もできるようにしたい。優しい先輩がいてくださって、ここまですれば良かったです。12月のボーナスで一人暮らしのための家の礼金敷金に消費しました！

今、得意なお料理作りで美味しモノを作って食べ、あとはソファでゆったり寛ぐ、幸せ時間を過ごしています。

(b)



「もっと勉強しておいたらよかったのに」と言います。もっといろんな利用者さんを担当できるようにしたいです。

初の賞与の使い道は、サブスクに登録して音楽を楽しんだり、ライブにも行ったりして趣味に消費しました！

(h)



利用者さんと関係性が徐々に出来てきたこと。私の名前を呼んでもらった時、嬉しかったです！

まだまだできないことも多くて「はあ〜」と沈んでいると、「大丈夫？」と手を握ったり、心配そうにしてください、利用者さんの優しさに救われています。

人手不足もあり、忙しく何でもしなくてはいけない分、いろいろな利用者さんと関わりをもっていることも！

仕事帰りにコーナンでたい焼きを買って帰るのが楽しみです。

(r)



information



えのき会が認定を受けました

「子育てサポート企業」として、一定の認定基準を満たした企業に、厚労大臣から与えられるマークです。

今年もフードドライブにご協力を!



お正月に起きた能登半島地震での支援を行うことも重要です。しかし、まだまだコロナ禍の爪痕で生活状況が厳しい方も多くいらっしゃるのも事実です。今回も、フードドライブとして、食べることも厳しい状況にある人たちを、微力ながら応援したいと思えます。一人でも多くの方のご協力をお願い致します。(チラシ配布あり)

西町 作品展のお知らせ

さくら西町 3階研修センター

日時 3月12日～15日
10:30～11:30
13:30～14:30

*当日は利用者さんも受付や案内をします。
多くの皆様のご来場お待ちしております

●さくら西町のタイプログラムの取組として『京都とおきの芸術祭』に出展しています。今年度は、佳作に入賞しました。その作品とあわせて、西町デイの活動で取り組んだ創作物も展示しています。また日頃の様子をスライドショーで振り返るコーナーも用意しています。西町をはじめ、えのきの家、ハックベリー、ベルも準備中です。
●ご多忙とは存じますが、久々の行事となります。多くの方のご来場をお待ちしております。

編集後記

災害大国日本では、以前に起きた災害が復旧、復興されない間に次の災害がどこかで起きています。

1月に「令和6年能登半島地震」が起き、TVに映し出される避難所の光景は、大きな体育館に大勢の人が直に布団をひいての雑魚寝。ニュースの度に同じような光景が映し出されます。ある新聞の報道によると「この風景は戦前とほぼ変わっていない」とありました。

新潟大学大学院の榛沢和彦特任教授は「体育館を避難所にする対応は先進国ではありえない。避難所は、被災したすべての人が安心し、健康的に過ごせて生活再建へ向けて力を蓄えてもらう場。食堂も巨大テントで、キッチンコンテナで、できたばかりの温かい食事の提供が当たり前。ヨーロッパやアメリカでは、そうした意識が共有されている。災害の被災者支援は、個人救済ではなく公共の福祉です。だから避難所の環境改善を急ぐ必要があるのです。」
私たちは、もっと怒ってよいのではないだろうか。(f)

□ 編集人: (福) えのき会 理事長 古川末子

(法人本部)

〒612-8002

京都市伏見区桃山町山ノ下4-8

電話 代表 075-605-0303(代表)



□ 発行人 関西障害者定期刊行物協会
大阪市天王寺区真田山町2-2
東興ビル4F

